

研究班番号【7】
異性をわかる
～男脳と女脳をフル活用～

保健班: 藪田 愛望、山口 永季

要約

私達は男女の間で違いが出るのは男脳、女脳と呼ばれる脳のタイプの違いが関係しているのかと考えた。私達が高津生を対象にし行った実験から、少なからず関係があるということが読み取れた。また先行研究や考察から①先天的要因②歴史的要因③後天的要因の3つの要因が挙げられるのではないかと考えた。そして後天的要因の一つであるジェンダースキーマを取り除くことで性の多様化に繋がるのではないかと考えた。

1. はじめに

男性と女性とは考え方の違いがあると一般的に考えられている。例えば、男性は論理的に動き、女性は感情で判断する、または、男性は変化に対して鈍感で女性は変化に対して敏感と聞いたことが一度はあるのではないか。そこで、私達はその違いが男脳・女脳と呼ばれる脳の構造・機能の違いに着目し、研究を行った。

2. 研究手法

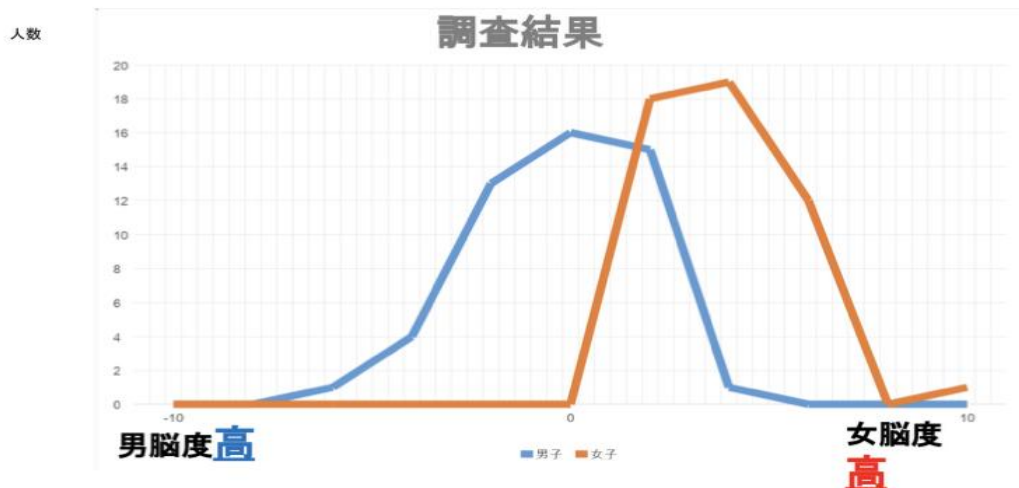
高津高校75期生の女50人、男50人に性別(性別の欄は回答 任意にした)、男脳度・女脳度をわけ以下の項目で自分にどちらが当てはまるかを選択してもらったアンケートを行った。以下の左側の項目を選んだ人はマ

イナス1、右側の項目を選んだ人はプラス1として換算し合計点がプラス10 に近いほど女脳度が高く、マイナス10に近いほど男脳度が高いとした。

内容のない会話はしたくない	おしゃべり自体が楽しい
口喧嘩になると口数が増える	口喧嘩になると口数が減る
人の好き嫌いが曖昧である	人の好き嫌いがはっきりしている
買い物の際、目的もなくぶらぶらしたくない	目的なくウィンドウショッピングするのが好き
友人たちと一緒に行動していてもトイレは一人で行く	友人たちと一緒に行動していたらトイレも一緒に行く
ボディタッチをされると相手を意識してしまう	相手を意識するとボディタッチをしてしまう
別れた相手を長く引きずりやすい	辛い別れでも1年以内にリセットできる
いつまでも自由でいたい	ちょっとは束縛されたい
いつも自分で決めたい	ときには相手にきめてほしい
説明するとききちんと話さなければならないと責任感を抱く	説明するとき相手に伝わるかどうか不安になる

3. 結果

このグラフは縦軸は人数を表していて、横軸はプラスの値が高いほど女脳度がつよく、マイナスの値が高いほど男脳度が強いことを表す。このグラフからわかるように、女子は女脳度が高い人が多く、男子は男脳度が高い人が多いということが分かった。



4. 考察

①先天的要因

人間の脳は見た目は同じだが脳の構造が脳の左右で異なる。左脳は思考、論理、言語を、右脳は知覚、感性、創造を司っている。その左脳と右脳を繋ぎ、情報の伝達を行うパイプのようなものを脳梁という。この脳梁は男脳に比べて女脳には多いという特徴がある。女脳は脳梁が多いという特徴を活かして左脳と右脳の両方を使って考えたり、話したりするため感情的になりやすく、逆に男性は右脳に偏るため論理的になりやすいなど脳の使い方が異なる。脳の構造によって脳の使い方が異なるため男女間で違いがでるがなぜ違いが出たのかそれには

歴史的要因が関係している。

②歴史的要因

私達には、まだ狩猟していたころの影響がまだ遺伝子レベルで残っているとされている。例えば男性は獲物の動きに合わせてルートを設定したり、最短ルートを探したりしていたため空間把握能力が高いとされている。女性には木の身を見分けたり食べられるかどうかの確認をしていたため視覚能力が発達したとされている。

③後天的要因

ジェンダースキーマとは、男性的・女性的というジェンダーに基づいたカテゴリー化を促す認知的枠組みである。

例えば、男の子は青色が好きだ、女の子はピンク色が好きだといったことだ。簡単に言うと、ジェンダースキーマとはこのような、幼児期から植え付けられる男子はこう、女子はこうだという固定概念のことである。私達はこのジェンダースキーマによって男女間での思考、価値観が異なってくると考え、この違いを男脳・女脳とした。ジェンダースキーマは、性の向上性(最終的に自分がどのような性とするか)にも影響すると言われている。これはどういうことかという、このジェンダースキーマは無意識のうちに社会に染み付いている。そのため、男性はこうである、女性はこうである、という男性像、女性像に無意識のうちに近づいていくことである。このジェンダース

キーマを取っ払うことで、固定化された価値観がなくなり、性の多様性につながるのではないかと私達は考えた。

5. 結論

男が男脳、女が女脳とは一概には言えず個人差によるものだが、思考の違いには男脳、女脳と呼ばれる脳の

構造、機能の違いと関係していることがわかった。この違いが生まれるのは、

①先天的要因②歴史的要因③後天的要因

が挙げられるとわかった。そして、私達は後天的要因の一つであるジェンダースキーマを取っ払うことで性の多様性にも繋がるのではないかと考えた。お互いの価値観の違いを認め合い、理解し合う姿勢がこれからの私たちに必要であると思う。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

「子供の科学のwebサイト」

<https://www.kodomonokagaku.com/read/hatena/5156/>

「幼児のジェンダースキーマ」

<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/arts/course/in-culture/docs/08myamada.pdf>

「社会の刷り込みが人のパフォーマンスに与える影響」

<https://eijionline.com/n/na333fc832278>